



校長室の窓から

～校訓 真面目 精一杯 自主自律～

令和6年8月29日

城北中学校長
山本 則夫

無限の可能性がある君へ

〈2学期始業式・校長式辞より〉

長い夏休みが終わりました。3年生の運動部の皆さんにとっては中学校生活最後の夏となりましたが、どの部も最後まで精一杯・正々堂々とプレーする姿を誇りに思います。本当によく頑張りました。文化部の皆さんも最後のコンクールや文化祭が終わると次は受験に向けて頑張るときです。期待しています。

さて、今年の夏はパリオリンピックが開催されました。私の印象に残っているのは、男子の団体体操です。決勝は、エースの橋本選手があん馬で落下するなど苦しみました。しかし、キャプテンの萱（かや）選手は最後まで「絶対あきらめない！」と仲間を鼓舞し続けました。萱選手の練習方法は、どんなに崩れても演技を中断せず、とにかく最後まで通し切ります。この「あきらめない」スタイルが「失敗しない男」としての萱選手をつくりあげました。そして、中国のまさか失敗もありましたが、最後は日本のエース、橋本選手が登場し、最大のプレッシャーがかかる中、ミスなく着地を決め、日本は金メダルに輝きました。



さて「ノミの習性」を知ってますか？ノミは、体の150倍の1m以上ジャンプする能力があります。もし、私がノミならば東京タワーのトップデッキ255mまでジャンプすることができる計算になります。しかし、水槽に入れてフタをすると次第にそのフタの高さまでしか飛べなくなり、やがてフタを取っても、その高さ以上には飛ばず、水槽の外に出ることができなくなるそうです。これは、自分で自分の限界を作ってしまった状態です。これを心理学用語で言うと「心理的限界」と言います。

しかし、この跳べなくなったノミの能力を引き出す方法があります。本来の能力つまり1m以上ジャンプできる仲間を水槽に入れると、自分の力を思い出し、再び高く飛べるようになるそうです。人間も同じように、過去の経験や思い込みが、知らず知らずのうちに自分自身の能力を制限することになっているかもしれません。



ここで、私が言いたいことは、「心理的限界」をつくらず何事もあきらめずに粘り強く挑戦してほしいこと。そして、「人は人で磨かれる」という言葉があるように、「人生は出会いで変わる」ということです。君たちのまわりにはどんな人がいますか？君たちの成長を心から願う親や先生、何でも悩みを分かち合える友達がいることでしょうか。人の悪口ばかり言っている人やマイナス思考の人と行動を共にしても成長も成功も期待できません。

体操の萱選手のように最後まであきらめず、励ましてくれる友はいますか？ぜひ、そんな友達を見つけてほしいし、あなた自身が萱選手のようになってほしいと思います。

さあ、今日から新学期が始まります。たくさんの行事もあります。充実した2学期となることを期待しています。